





の軍事力を推す軍事工業は、戦前の同盟企  
業と同異り、戦後は民間企業であり、民兵  
隊は完全な商品として最大かつ唯一の需  
要を占める。以上は、B.T.の国内統治方針再  
編で、50年代前半に於ける試みである。中  
東に於ける担われべき政治者なら転換し  
、防衛に軍事同盟を政治過程のハブモノ  
として進行し、海外派兵、徴兵制、核武  
装の承認を目的として東南アジア支配の輪  
の国内派兵者人民への政策の強化として現  
出している。

軍事体系の完成を、基地の拡大、警備  
と日本共同使用、海軍力の増強と、こ  
の軍事体系を推す、軍事工業の完成と  
して、核武装への道を切り開こうとし  
ている。日帝は東南アジアの軍事  
体系は海外派兵体制の完成の中で、  
従来分離していた、一方での対外政策  
、世界分割の志向とメトナム、中国南  
部の米帝への協力として進められて  
、后進国人民革命戦争、新竹島国家へ  
の侵略、反革命戦争への志向を統一し  
、日本空軍のハブモノを米帝に有利  
に準備せんとしている。

④の東南アジアの軍事体制に  
向けた国内統治方針は、①の国内  
を侵略する重化学工業資本と金融資本  
、②と結合する帝国主義的野性運  
動、③の軍事のメロウのハブモノを  
進行している。「外交、防衛問題につ  
いて国民の共通認識を確立して、我日  
の平和勢力をアジアの平和と開発に向  
け、前途途上の国の独立と利益の増大  
するに同盟方針」という同盟方針を  
日本を東南アジアの不可分性を強調  
し、極東の安全を守る社会排外主義と  
して完成させている。又、軍事問題  
に於いて、11月10日の中絶主席公選を  
媒介にした中絶株論争、基地拡張、60  
年と日自衛隊三原則同盟宣言で排外主  
義の軍事力を推す軍事工業は、戦前の同盟企  
業と同異り、戦後は民間企業であり、民兵  
隊は完全な商品として最大かつ唯一の需  
要を占める。以上は、B.T.の国内統治方針再  
編で、50年代前半に於ける試みである。中  
東に於ける担われべき政治者なら転換し  
、防衛に軍事同盟を政治過程のハブモノ  
として進行し、海外派兵、徴兵制、核武  
装の承認を目的として東南アジア支配の輪  
の国内派兵者人民への政策の強化として現  
出している。

3. 中東のNATOの解体と同盟戦争

①帝国主義の不均等発展に基く、市場分割  
戦と新竹島国家の存在、后進国階級戦争の激  
化と対する反革命の国際的革新同盟で  
国際的革新戦争の準備とある「反革命  
同盟再編」69年NATOの70年改定は  
は全中東を政治的、経済的焦点を形成して  
いる。

②后進国は50年代に於いて、米帝の援助に  
日家資本輸出を受け、米帝の余剰農産物の  
押しつけの過程で、唯一の産業に農業生  
産を破壊し農村を形成した。この農村を米  
帝から援助拡大の中で農業生産の構造  
を再構築し、農村を一応脱出して、軽工業  
を先進帝国主義の重化学工業資本との結  
合の中で育成した。しかし、これはB.T.の  
戦にのり出す体制完成の段階で、東  
南アジア人民の革命戦争と結合した  
国内全人民の反戦戦争の反戦の前に  
政治的農村を作り出している。

③先進帝国主義、とりわけ米、日、  
西独帝は市場分割戦のハブモノを  
として展開している。また、分割戦の激  
化から50年代の革命を展開して  
は展開している。しかし、国内人民  
と后進国人民の反戦の前に軍事的、  
政治的農村を形成している。米帝は  
メトナム侵略戦争に於いて、メトナム  
人民の政治的農村に軍事的地北を  
続けており、国内B.T.、学生の反戦  
戦争と下B.T.黒人解放戦争と結  
合して市民社会の深部から揺動を  
出した。日帝は、自ら及侵略反革命  
戦にのり出す体制完成の段階で、東  
南アジア人民の革命戦争と結合した  
国内全人民の反戦戦争の反戦の前に  
政治的農村を作り出している。

(以下次頁)



